



TITLE:

京大広報 No. 122

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

---

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 122. 京大広報 1976, 122: 547-549

ISSUE DATE:

1976-03-19

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209569>

RIGHT:

# 京大広報

No. 122

京都大学広報委員会

## 入学試験の実施にあたってとられた措置および経過について

本学において、さる3月3日から5日までの3日間にわたり行われた入学試験の準備と実施のためとられた措置および経過は、以下のとおりである。

1. 2月24日、総長は評議会において、入学試験の実施について、次のような趣旨のことを述べ、評議会はこれを承認した。

「入学試験の実施は大学に課せられた社会的責務の一つであり、出来るだけ静かな環境の下で実施されねばならない。かねてより、入学試験委員会において、全学的な見地から入学試験場の割当てが検討され、理学部の試験場として教養部構内の教室を使用することが決定されている。入学試験の実施にあたって教養部表門につくられているバリケードは除去されなければならない。バリケードは、学生自らの手によって撤去されることを期待して最後まで説得に努力するが、それが実現しないときには、大学の手で除去しなければならない。学内警備体制については大綱において昨年とほぼ同様の方式をとることにし、万全を期するつもりである。しかし場合によっては、警察の援助を得なければならないこともありうる。その要請は総長の責任において行いが、部局長会議に諮り慎重にとり行う所存である。その時期・方法等を含めて総長に一任願いたい。」

2. 2月28日、下記の総長掲示が出された。  
(掲示)

本学においては、来る3月3日から3月5日まで昭和51年度入学試験を行う。

言うまでもなく、入学試験を平穩に行うこと

は、大学の重要な業務である。

従って、バリケード、占拠等受験生に不安を与えたり、入学試験業務に支障を来すような状況は除去されねばならない。

学生諸君の良識ある行動を強く要望する。

昭和51年2月28日

京都大学総長 岡本道雄

3. 3月1日、午前7時頃より学生部長および学生部委員は、教養部構内において集会を開いていた学生に対して、入学試験実施についての総長の基本方針を伝え、自らの手でバリケードを解くよう説得を始めた。さらに、バリケードを自ら撤去しないならば、大学が除去するから混乱を避けるため、この場を立ち去るよう要望したが、学生側はこれを拒否した。学生部長らはその後も繰返し学生に退去の勧告を行った。8時30分総長の退去命令が伝えられ、さらに学生部長らによる警告が繰返された。9時30分になって、このままでは警察の援助を要請せざるを得ないとの総長の最後の警告が行われ、要請に応じて待機していた機動隊の一部は教養部表門近くまで移動した。9時35分、バリケード内の学生は隊列を組んで門を出た。その後、本学の教職員によって、バリケードの撤去が始められ、10時10分頃には教養部のバリケードの撤去が終了した。

一方、北部構内の理学部部長室ならびに事務室を占拠封鎖していた学生に対しては、2月29日午後理学部長よりの退去命令が出されていたが、この日、午前7時頃より理学部教官による退去の説得がなされ、7時20分頃になって学生が退去し、教職員の手によって封鎖は解除され、8時30分頃までに、事務室内の整理が終了

した。

4. 3月2日、総長は入学試験の実施のために下記の掲示を出した。

(掲示)

3月3日から5日までの間入学試験実施のため、とくに学内における次の行為を禁じます。

- 一 集会を開くこと。
- 二 マイクを用いて静穏を害すること。
- 三 デモを行うこと。
- 四 その他入学試験を妨害する一切の行為

昭和51年3月2日

京都大学総長 岡 本 道 雄

(掲示)

入学試験を円滑に実施するため、3月3日(水)から3月5日(金)午後1時までの間、本学関係者ならびに受験生以外の方の入構を禁止します。

各位の御理解と御協力をお願いします。

昭和51年3月2日

京都大学総長 岡 本 道 雄

なお、入学試験期間中は次のような入構車両制限ならびに車両通行門の限定の措置がとられた。

車両制限：3月3日午前7時から5日正午まで、本部、教養部、医学部および薬学部の各構内に入出入する車両は、本学関係者の車および本学にやむを得ない用務のある車両以外入構禁止とする。

車両通行門（吉田地区構内）の限定：

本部構内

午前7時から午後6時まで 入構は北門  
出構は裏門

午後6時以降 出入構ともに正門

教養部構内

午前7時から午後6時まで  
出入構ともに西門

5. 3月3日から始まった入学試験は、予定どおり5日に終了した。

なお、3月2日正午前、約30名の学生の一同が、総長室に乱入し、執務中の総長を時計台前の広場へ連れ出し、約4時間にわたり話し合いを迫るという事態が起った。

その間学生は、主として、3月1日の教養部表門のバリケード撤去ならびに理学部部長室および事務室の封鎖解除に際し、警察の援助を要請した責任の所在を問い、また国会審議を待たず文部省令のみによる授業料増額が行われることに対する総長の態度表明を迫った。総長は今回の入学試験の実施に伴ってとった措置のすべての責任は総長にあることを言明すると共に、今回の授業料増額に対する総長の見解（京大広報No.119）を説明し、今後については事態の推移に従い、熟慮の上対処すると述べた。しかし総長は、学生のとった当日の行動は極めて遺憾であり、このような状態の下で、これ以上のことを話し合う意思のないことを繰返し主張した。

4時頃学生は総長を連れ出しデモを行ったのち解散した。

また、3月2日午後11時30分頃、理学部の入学試験場の一部に割当てられていた教養部E号館の窓ガラス等が何者かによって破壊されたが、翌朝からの入学試験実施を控えて応急処置をほどこした。

## 学生教育研究災害傷害保険制度について

このたび、学生教育研究災害傷害保険制度が発足し、昭和51年4月1日から実施されます。

この制度は、学生が「在籍する大学の正課中に生じた急激かつ偶然な外来の事故によって身体に傷害を被ったとき」これに対して保険金が支払われる、任意加入の互助共済制度であります。

保険の掛金と保険金額は次のとおりです。

### 1. 掛 金

保 険 期 間	掛金(保険料分担金)適用区分	
	A 文 科 系	B 理工・体育系
1 年 間	350円	850円
2 年 間	600円	1,550円
3 年 間	900円	2,250円
4 年 間	1,150円	2,900円
5 年 間	1,400円	3,500円
6 年 間		4,050円

(注) 保険期間は所定の修業年限にあわせます。



## 2. 保険金の種類および額

## (1) 死亡保険金

(事故の日から180日以内に死亡したとき)

1,000万円

## (2) 後遺障害保険金

(事故の日から180日以内に後遺障害が生じたとき)

その程度に応じて 45万円～1,500万円

## (3) 医療保険金 (医師の治療を受けたとき)

平常の生活ができるようになるまでの治療期間	支払保険金
7日以上14日未満の場合	7,000円
14日 " 30日 "	10,000円
30日 " 60日 "	20,000円
60日 " 90日 "	30,000円
90日 " 120日 "	50,000円
120日 " 150日 "	70,000円
150日 " 180日 "	90,000円
180日 " 270日 "	120,000円
270日以上の場合	150,000円

この保険には、学部学生、大学院学生、医療技術短大学生、研究生、聴講生の希望者は加入することができます。

加入の受付期間は4月1日から4月30日までです。この制度の概要ならびに加入手続きについてはプリントにして学部、教養部、研究所および附属施設の事務室窓口に備え付けてありますから利用してください。

なお、詳細については、学生部 厚生課 厚生 掛 (電話学内 2533, 2534) で「解説書」を参照するか、または同掛に問合せてください。(学生部)

## 白浜海の家開設について

このたび、白浜海の家を下記のとおり開設しますので、本学の学生および教職員はふるって利用してください。この海の家は、三段壁を初め千畳敷、円月島など風光明媚な南紀白浜にあり、海にも近く、夏には海水浴に最適のところです。

なお、建物は木造平屋建(居室は、和室で3室)で、収容定員は35名です。

記

## 1. 名 称 京都大学白浜海の家

## 2. 所在地 和歌山県西牟婁郡白浜町

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内

(交通機関) 国鉄紀勢線「白浜駅」下車、明光バス「明光バス本社前」行に乗車、終点で「臨海」行バスに乘換えて、「臨海」下車。

## 3. 開設期間 4月1日(木)から9月10日(金)まで

## 4. 申込み 体育会事務室(西部構内総合体育館内)

## 5. 所要経費 1人1泊使用料50円、ほかに食費等実費程度

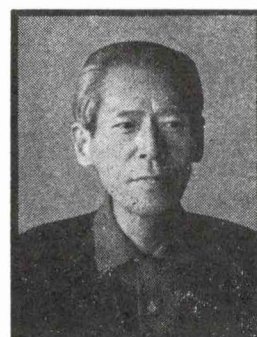
## 6. 備 考 海の家のある理学部附属瀬戸臨海実験所構内には、500種以上の海の生物を集めた水族館があり、一般にも公開しています。

なお、詳細は体育会事務室(電話学内2574)に照会してください。(学生部)

## 経済学部岸本英太郎教授の逝去について

経済学部岸本英太郎教授は、3月11日午後10時30分、心臓絶対性不整脈のため逝去された。享年61歳。

岸本教授は、社会政策講座担任で経済学博士。昭和12年、京都帝国大学法学部卒。同経済学部講師、助教授を



を経て、昭和32年経済学部教授。昭和40年1月から1年間、経済学部長を務められた。戦後再建された社会政策学会の発起人になり、社団法人労働調査研究所会長、大学設置審議会専門委員、学術審議会専門委員などを歴任。『社会政策論の根本問題』(昭和25年)など数多くの著書、論文によって戦後の社会政策学の発展に貢献された。

なお、岸本教授の経済学会葬は、来る3月26日(金)午後2時から3時30分まで、法経第7教室で執り行われる。